

第一次生物多様性いちかわ戦略の評価

参考資料

第一次生物多様性いちかわ戦略						基準年度 2014（H26）	短期目標年度（当初）		直近実績		短期中期目標	
基本理念	基本戦略	行動計画		施策	指標番号	指標	数値等	2020（令和2）	評価	2024（令和6）	評価	2025（令和7）
「自然と自然」「文化と文化」「人と人」「自然と文化と人」のつながりを形成すること	基本戦略1 生物多様性の保全・再生 「自然と自然をつなげる」	(1)	地域の核となる自然環境を保全していきます	市内緑地の保全と活用	1-1	行徳近郊緑地特別保全地区の生物多様性の状況	鳥獣保護区（56ha）の鳥類確認種数：91種	鳥獣保護区（56ha）の鳥類確認種数：86種	A	鳥獣保護区（56ha）の鳥類確認種数：82種	A	【旧（～2022年度）】／生物多様性の回復 【新（2023年度～）】／生物多様性の維持
					1-2	あいねすとの来館者数【新（2023年度～）】	—	—	—	38,114人	A	生物多様性についての知識の向上
					2	大町公園の生物多様性の状況	大町公園、市民キャンプ場、霊園の適正な管理	看板、水路の一部修繕。 委託による樹木の剪定、伐採、草刈。	B	ナラ科等の樹木を対象としたナラ枯れ対策のための薬剤注入及び伐採。	B	／生物多様性の回復
				民有樹林地の保全協定の維持	3	協定山林の面積	38.1ha	36.2ha（対H26年度比）△5%	B	34.6ha（対H26年度比）△9.2%	B	→民有樹林地の保全
				水辺の生物多様性の保全再生	4	真間川水域水循環系再生構想の推進	構想の実施計画である「真間川水循環再生行動計画」に対する、4市の取り組み状況を、真間川懇談会で報告し合った	5人槽6基に対して高度処理型合併浄化槽への転換補助（5,544,000円） 雨水貯留施設(雨樋取付型)7件、雨水貯留施設(浄化槽転用型)2件の設置に対する助成(281,555円)	A	5人槽2基の高度処理型合併浄化槽への転換補助（1,600,000円） 雨水貯留施設（雨樋取付型）10件の設置に対する助成（159,150円）	B	／水辺環境の生物多様性の回復
					5	三番瀬の再生事業の促進	県にて「三番瀬干潟の環境形成検討事業業務委託」を実施	県に人工干潟造成を要望	B	干潟再生に先立ち、現在の環境を把握するためモニタリング調査を実施。	A	／水辺環境の生物多様性の回復
					6	三番瀬再生事業の推進	漁業協同組合が漁場改善のため客土を実施（783㎡）	漁場改善を目的とした団体へ支援を実施	A	・航路浚渫土砂を活用し、漁場に投入（約5,800㎡） ・漁場改善を目的とした団体へ支援を実施	A	／三番瀬漁場の再生
				優良農地の保全	7	農業振興地域の面積	386ha	386ha	A	386ha	A	→都市農業の振興
		(2)	身近な自然環境の保全再生を図ります	都市公園の整備	8	都市公園の面積	—	殿台第2公園（新設）、柏井町さつき公園（新設）	A	きんもくせい公園（新設）ほか5件新設	A	／市街地の都市公園の拡充と保全
				市街地の緑地の保全	9	都市緑地の面積	60.58ha	76.41ha	A	76.41ha	A	／市街地の都市緑地の拡充と保全
				河川環境の保全	10	生物の生息状況 海～川～谷津のつながり	全体延長1,621mのうち1,496m(92.3%)が整備済	全体延長1,621mのうち1,588m(98%)が整備済	A	整備済	A	／河川の生物多様性の回復
				市民に親しまれる身近な自然環境の再生	11	子どもたちが体験・体感できる場	各学校で実施 いちかわ戦略周知のため開催	学校ビオトープは各学校に委ねている	B	江戸川ビオトープは年1回草刈および専門員による生物調査を実施	B	／子どもたちが体験・体感できる場の形成
		(3)	地域本来の生物を保護・再生し、外来生物による生態系への影響の軽減を図ります	地域本来の生物相の保護・再生	12	在来種の生息地の状況	浅井戸水の供給	イノカシラフラスコモの生息に必要な浅井戸水の水質調査を実施。生息状況を確認。	A	イノカシラフラスコモの生息に必要な浅井戸水の水質調査を実施。生息状況を確認。	A	→在来種の生息環境の保全
				外来生物対策	13	アライグマの侵入状況	アライグマは市内で繁殖には至っていない	捕獲わな設置件数：12基、 アライグマ捕獲処分数:12頭	B	捕獲わな設置件数40基、アライグマ捕獲処分数：31頭	A	→外来種の侵入を防ぐ
				園芸植物やペットの適正な管理と飼育	14	【旧（～2022年度）】地域戦略の市民認知度 【新（2023年度～）】外来生物についての啓発活動数	「ガーデニングシティ・いちかわ」の推進により在来種の生息環境保全を図った	ガーデニングシティいちかわ及び景観まちづくりの取り組みにより、在来種の生息環境の保全を図った	R	・Webサイトにて「外来種「入れない」「捨てない」「拡げない」」を周知。 ・令和6年2月「外来生物対策マニュアル」を策定し、周知。	A	【旧（～2022年度）】在来種の生息環境を保全 【新（2023年度～）】外来生物に関する適正な知識の普及
	(4)	民有地の緑を増やし保全します		住宅地の緑化推進	15	住宅地の緑化に関する市民意識	生垣設置助成:7件(95.4㎡) 屋上緑化助成:0件(0㎡)	生垣設置助成:4件(50㎡) 屋上緑化助成:0件(0㎡) 駐車場助成:5件(196㎡)	B	生垣設置助成:0件（0㎡） 屋上緑化助成:0件 駐車場助成:0件(0㎡)	B	／住宅地の緑化に関する市民意識の向上
				大型店舗や工場敷地の緑化推進	16	工場緑化の状況	緑化基準達成率：工場・事業所87%（27件/31件） 事業系建物の申請において、関連課の協議対象となるものは100%達成（セミナー参加者26名）	・工場等の緑化届出件数：29件 ・年度末時点での工場等の緑地面積：968,726㎡	A	・工場等の緑化届出件数：35件 ・年度末時点での工場等の緑地面積：908,216㎡	B	／生物多様性に配慮した緑化
				都市農地の保全	17	生産緑地の指定面積	98.16ha	313地区 91.30ha	B	291地区 82.13ha	B	→生産緑地の維持
	基本戦略2 豊かな文化と景観の保全・創出 「文化と文化をつなげる」	(1)	地域の伝統ある行事を継承していきます	地域の伝統ある行事の継承	18-1	【旧（～2022年度）】案内人の活動 【新（2023年度～）】伝統行事の案内	①観光・物産案内所での情報発信②市川案内人の会の活動への支援③市川市観光協会が主催する観光講座への支援(観光交流)④街回遊展でのガイドツアーの実施⑤まち案内所内開設(文化振興)	いちかわ観光・物産案内所での情報発信や特産品等の紹介。 まち歩きイベントにて観光スポットを案内。	R	データなし	C	→自然に根差した地域文化の伝承
					18-2	指定無形民俗文化財への補助【新（2023年度～）】	—	—	—	指定無形民俗文化財2件（国府台辻切り/御奉請） 補助金額：90,000円	A	→自然に根差した地域文化の伝承
	(2)	文化的資産や社寺林のある景観を守ります		社寺林と周辺緑地の保全	19	特別緑地保全地区の指定面積	—	・行徳近郊緑地特別保全地区83ha ・特別緑地保全地区3地区(2ha) （平田、宮久保、子の神）	A	・行徳近郊緑地特別保全地区83ha ・特別緑地保全地区3地区(2ha) （平田、宮久保、子の神）	A	→市街地の緑地空間の保全
				巨樹や巨木の保全	20	協定本数	189本	172本（対H26年度比）△9%	B	186本（対H26年度比）△1.6%	B	／巨樹、巨木の保全
	基本戦略3 様々な人や組織との協働 「人と人をつなげる」	(1)	市民と事業者と行政の協働により、自然環境の保全を行っています	市民ボランティアによる緑地や山林の保全	21	保全緑地の状況	12箇所	15箇所	A	16箇所	A	／生物多様性に配慮した保全
				事業者による緑地の管理	22	【旧（～2022年度）】地域戦略の事業者認知度 【新（2023年度～）】事業者・市民を対象とした講演会への参加者数	生物多様性セミナーへの参加事業者数:16社	市内民間事業所を対象とした、いちかわ戦略の認知促進活動は未実施	R	和洋女子大学にて、大学生を対象に生物多様性セミナーを実施：24名	A	【旧（～2022年度）】いちかわ戦略の市内事業者への認知 【新（2023年度～）】／事業者に対するみどりの管理に関する知識の普及
				市民ボランティア活動への支援体制の整備	23	【旧（～2022年度）】事業の進捗状況 【新（2023年度～）】ボランティア団体の交流会の実施状況	—	ボランティア:9団体 会員数164名	A	ボランティア: 8団体 会員数189名 交流会実施数：12回	A	／市民ボランティア活動への支援体制の推進
		(2)	市民ボランティア活動に参加する市民や事業者のための人材育成をおこなっていきます	市民ボランティアの育成	24	花と緑の講習会 年間開催講座数	10講座	花と緑の講習会を定期的に開催し、市民への花と緑に関する知識を普及している	A	9講座	B	／花と緑に関する知識と技術の普及
				市民と市民ボランティアとの交流の場の提供	25	いちかわこども環境クラブの参加クラブ数・メンバー人数	10団体、90人	31団体、170人	A	27団体、159人、講座：1回	B	【旧（～2022年度）】／25団体 【新（2023年度～）】／35団体（23年度33団体、24年度34団体）
				市民ボランティアへの支援	26	エコギャラリー 参加団体数	12団体	9団体	B	7団体	B	／20団体（23年度13団体、24年度17団体）
					27	環境団体 登録団体数	環境活動団体：36団体 緑のボランティア活動支援：8団体	環境活動団体：32団体 緑のボランティア活動支援：9団体	B	環境活動団体：31団体 緑のボランティア活動支援：8団体	B	／45団体（23年度42団体、24年度43団体）
		(3)	生物多様性に関する知識と理解を広めていきます	生物多様性に関する知識の普及啓発	28	生物多様性に関係する講座への参加者数	11回	自然環境講座、生物多様性セミナーを開催することにより幅広い世代に啓発を行った。	A	自然環境講座：2回、166人 生物多様性セミナー：1回、24人	B	【旧（～2022年）】／200人年 【新（2023年度～）】／350人/年（23年度330人、24年度340人）
				生物多様性に関する調査と資料・情報の収集・保存	29	指標生物による把握	—	シンボル種（鳥類）:確認数1,332羽（行徳除く） いきものマップ アクセス数:4,206件 投稿数:555件 調査員数:132人	A	シンボル種（鳥類）:確認数 1,337羽 いきものマップ アクセス数:1,295件 投稿数:641件 調査員数:146人	A	／生物多様性に関する情報収集
	基本戦略4 生物多様性の持続可能な利用 「人と自然と文化をつなげる」	(1)	生物多様性に配慮した都市開発や事業活動、市民生活をおこなっていきます	道路建設における生物多様性への配慮	30	地域戦略の庁内認知度	都市計画道路3,14,18号事業地内のクロマツ保全 八幡5丁目クロマツ公園の整備	該当なし	A	都市計画道路3・6・32号の整備にて、街路樹の整備（ヒドツツジ240本、ハナミズキ25本	A	／生物多様性に配慮した公共事業の普及
				事業活動における生物多様性への配慮	31	【旧（～2022年度）】地域戦略の事業者認知度 【新（2023年度～）】事業者・市民を対象とした講演会への参加者数	生物多様性セミナーへの参加事業者数:16社	2020年は新型コロナで中止、2019年は千葉商科大学で講演、2018年は市内小中学校の教員を対象にしたセミナー開催	R	和洋女子大学にて開催（野生生物対策について講演）	A	【旧（～2022年度）】生物多様性に配慮した事業活動の普及 【新（2023年度～）】／事業者に対する生物多様性に関する知識の普及
				消費活動における生物多様性への配慮	32	地域戦略の市民認知度	いちかわ戦略を知っている市民の割合:11%	いちかわ戦略を知っている市民の割合：36%（388人/1,081人）	B	いちかわ戦略を知っている市民の割合：38%（439人/1,147人）	B	／生物多様性に配慮した消費活動の普及
		(2)	地球温暖化対策に取り組みます	地球温暖化対策の推進	33	温室効果ガスの市内における排出量	3129.6千t-CO2	2,278.2千t-CO2	B	2022年(速報値)：2537.0千t-CO2	B	△2145千t（23年度2,290千t、24年度2,218千t、25年度2,145千t）
				再生可能エネルギーの普及	34	【旧（～2022年度）】住宅用太陽光発電システムの普及件数 【新（2023年度～）】住宅用太陽光発電システムの設置設備容量	累計 3,051件	18,913kw	B	2023年実績：24,848kw	A	【旧（～2022年度）】／5,000件【新（2023年度～）】／23,000kw(23年度21,000Kw、24年度22,000Kw)
		(3)	子どもたちが自然や文化にふれあえる機会を増やします	子どもたちが自然や文化とふれ合える機会の提供	35	地域の自然や文化を身近に感じる子どもの割合	各学校で実施	グリーンスクール事業等における学習を通じて生物を大切にしたいという記述や行動が見られるようになった。	A	グリーンスクール(日帰り)6回、グリーンスクール(宿泊)2回実施	B	／地域の自然や文化に対する理解と普及

注） A：順調に進捗している B：進捗に遅れがある C：進捗の把握ができていない R:指標の見直しが必要である